

■日独学長会議出席、エジプトのカイロ大学、アル・アズハル大学訪問

6月7日更新



5月17日(月)～18日(火)、日独学長会議がドイツのベルリン市で開催され、山口大学からは丸本学長、松田副学長(国際・社会連携担当)が出席しました。

会議には、日独の約60大学(日本側約30大学、ドイツ側約30大学)が参加し、「優れた教育、学習、研究の支援」、「変遷する大学運営」、「大学の戦略的国際化ならびに共同活動のチャンス」および「大学として如何にグローバル化の課題に対処し得るか」について、日独両国の共通の課題、協力に向けての方策についての議論を行いました。歓迎のレセプションでは、丸本学長が日本の大学の代表として「この会議を契機に、ドイツの大学と日本の大学の交流が一層緊密になることを期待します。」と挨拶しました。

また、山口大学がアフリカの大学と新たな協力関係を築くために、5月20日(木)に、カイロ大学(エジプト・カイロ市)のフセイン・ハレド副総長、5月22日(土)には、世界最古の大学の1つであるアル・アズハル大学(エジプト・カイロ市)のアブドゥッラー・エルホセイニ総長を訪問し、学術交流について意見交換を行いました。さらには、在エジプト日本大使館の石川薫大使、JICA エジプト事務所の井黒所長を訪問し、エジプトの大学との交流、E-JUST(エジプト-日本科学技術大学)への参画についての協議を行いました。

今後、アフリカの大学とのさらなる交流の発展が期待されます

